| | | |
|---|---|---|
| Ｎｏ． | ８ | |
| 学区 | 滋賀学区 | |
| 主な相手先 | 滋賀学区文化協会、宇佐八幡宮関係者ほか | |
| 日時 | ２０１９年７月１０日（水曜） | |
| 概要 | ・滋賀学区（南部）での伝統的な行事・活動と考えられるのは３つ。旧大津陸軍墓地での陸軍墓地奉賛会、近江神宮の近江まつり、宇佐八幡宮の例祭<br><br>・旧大津陸軍墓地での陸軍墓地奉賛会の詳細は不明<br>・陸軍墓地奉賛会は、その設立年代から西大津バイパスの工事に伴う墓地の移転に伴ってできたものか？<br>・墓地は今でもきれいに維持管理されているが、自衛隊も清掃活動をしているようだ<br><br>・近江神宮が勅祭社（天皇陛下の使者が祭りに来られる神社）の一社であることから、近江まつりには天皇陛下の使者が来られる<br>・近江まつり当日は、各自治会の子供神輿がまず町内を巡行してから、近江神宮に集合し、順番に拝殿へと上がり、本殿での祭事に参加する<br>・拝殿に上がる順番は決まっているが、１つずつ順番が繰り上がっていく（例、一昨年：１０番、去年：９番、今年：８番）<br>・一番に上がる自治会の長が、祭りの最後に万歳三唱をあげる<br>・参加する自治会は２２で、神輿の数は１８基。<br>・近江まつりに子供神輿が参加するようになったのは、昭和４３年ごろときく<br><br>・宇佐八幡宮の例祭は、宮司、自治会、宇佐山会の３柱で行われている<br>・宇佐山会は、当初あった地域の青年会がなくなり、祭りの存続が危ぶまれたことから発足した、５０歳以下の者が参加する組織。正確な設立年はわからないが、創建９００年祭（昭和３９年）の時にはあったと記憶している<br>・宇佐山会の設立年がわかるような会則などの資料はない<br>・現在の宇佐山会は小学４年以上で構成。祭礼のときは、小学生、中学生が太鼓叩き、鉾、榊を担い、高校生以上が神輿を担ぐ<br>・参加してくれる人は限られているので、毎年同じような顔ぶれ<br>・１つの神輿を担ぐのに、交代要員を含めて５０名ほど必要になるが、去年は４８名であった<br>・昔は子供が多く、小学４年生の役回りはほとんどなかったが、近年は参加者が減少しているため、小学４年生でも役回りがある<br><br>・自治会は、毎年輪番で回ってくる当家（とうや）が奉仕を一手に行う。年初の注連縄の張替え、例祭に向けたのぼり棒の配布、例祭の御供の準備を行う | |

| | |
|---|---|
| | ・自治会は１４自治会あるが、２自治会で１つの当家を担うところもあり、当家は８年に１回のペースで回ってくる<br>・もともとは当家と呼ばれるように家単位（４、５軒ずつか）で担っていたが、昭和４８年に存続の危機を感じ、自治会単位で行うことになった<br><br>・年初の注連縄の張替えは、境内、氏子域内など４０から５０箇所で４，５メートルの注連縄の張替えを行う<br>・注連縄に使う藁は、地元の田んぼで栽培いただいたものを使用しているが、栽培件数は４，５軒で、すべて手作業（機械でやると傷み、使い物にならない）でやってもらっている<br>・藁（もち米）の栽培を担っている農家も６０代から８０代の人で次代の人が担ってくれるかどうかの不安がある<br><br>・年初にはどんども行い、どんどでは藁で「蛇（じゃ）」を作り、日の出とともに火をつける<br><br>・例祭（９月）に向けての準備は４月から行う<br>・４月に例祭で使用する松明に使う松の根を掘り起こす。松の根を使うのは、例祭が行われる９月は雨が多く、雨で消えないような火をつけるのには松が最も適しているから<br>・山に松の根を取りに行くが、松が減少してきていて、確保するのが大変。昔は人の手が入っていた里山であったが、近年人の手が入らなくなり、山が荒れているため、なかなか松が育たない<br>・松の植樹等はしていない<br>・松以外の素材を使って、油を染み込ませるなどの工夫をしてみたが、やはり松が一番よい<br>・松の根のなかでも「じん（漢字不明）」と地元の人が呼ぶ部分は一番よく燃えるのだが、貴重であるため、松の根のほかの部分と混ぜながら松明を作っている<br>・松明は全部で約８０本つくる<br>・４月以降に境内に行くと、境内に松の根が干してある<br><br>・当家による御供の準備は、例祭の２、３日前から公会所で行われる<br>・練り酒など４種類ほどの御供を用意するが、練り酒では米を臼でひくところから始めるなど、非常に作業が大変<br>・御供の作り方のレシピがあり、昔は紙で回していたが、今はデータで送られてくる。昔のレシピ本も存在する<br><br>・神輿の渡御は２日間に分かれて行われ、１日目は、日中公会所に核のされている神輿を上拝殿まで上げ、夜に松明の火を頼りに上拝殿から下拝殿（約５００メートル）に神輿を降ろす。２日目に氏子域内を人が担いだり、トラックに載せたりしながら巡行する<br>・神輿を上拝殿から下拝殿に降ろすときは、一気に降ろすのではなく、下がったり、 |

| | |
|---|---|
| | 上がったりしながら少しずつ降りていく<br>・参道は急斜面であるため、祭礼の前には道直し（昔は道造りと言った）と呼ばれる整地、掃除が行われる。また、滑ることなく歩けるので藁草履を履くのが通例であったが、藁草履が非常に高価であることから、今年から地下足袋のみで行うことになった<br>・例祭の途中、随所で「イセ音頭」が唄われるが、特に練習しているわけでもないので、知っている人しか知らない状態<br>・例祭では、女の子も稚児で参加することができ、各自治会から小学４年生の子を推薦してもらっているが、子供の人数も減ってきていることや夜遅くの祭礼に出すわけにいかないと考える親もいると思われることから、小学校５年生、６年生の子が参加することもある<br><br>・８月には山の神の行事も行っている |